

地域志向教育研究発表

地域日本語教育への提言 —ボランティア育成の実践と課題—

研究代表者: 人間健康学部 吉永 尚



現在、尼崎市内の外国人登録者数は1万2千人を越え、国籍は、韓国、中国に次いでフィリピン、ベトナム、ブラジルが多く、米国、ペルー、タイ、インドネシア、カナダ、英国、インド、ボリビア、その他様々です。日本人の配偶者や技能実習生など、社会的役割も多様で、「地域の隣人」として定住し日本社会に適応したいと考えています。しかし、日本語を学ぶのは自己責任という事になっており、「言葉の壁」は大きな問題で、彼らの言語保証を整える事は、外国人との共生社会実現に近づく早道と言えます。

そこで、市の国際交流協会や公民館、市民団体が中心になり、6か所で日本語学級を立ち上げ、近隣の人が日本語指導ボランティアとして活躍されています。尼崎市は工業地帯を抱え、ベトナムを中心として多くの研修生が来日し、日本語教室は二十数年間の実績があります。しかし、近年、多国籍化や市民交流の減少に伴い、日本語ボランティアにも知識技術面でスキルアップの必要性が生じてきたと言われています。

公開講座「日本語を学ぼう、教えよう」は、日本語を母語としない人にとって、何が難しいのか、という視点から、日本語を見つめなおし、言語的な難しさ(文型、語彙、表現)、文化的、社会的難しさについて基本的な知識を学び、教え方の技術を習得する事を目標とし、開講して6年が経ちました。

今春、地域志向教育研究に参加させていただき、教授内容をより効率的にするため、市内の日本語教室のボランティアの先生方、学習者の方にアンケート調査をさせていただきました。

現在の集計結果では、国籍や文化による学び方の違いを困難とする回答が多く、漢字圏と非漢字圏の学習困難度の相違も上がっています。多くの方が困難と感じている点に焦点を絞り、講座内容にフィードバックしていく予定です。また、国際交流や外国の文化に興味を持つ人を学内から募り、お国自慢料理講習会や折り紙教室、クリスマスパーティーなどに参加し地域市民としての国際交流を推進したいと思っています。興味のある方は是非、ご参加ください。

尼崎市に住む高齢者のための 運動交流プロジェクト開発と実践



「PAPER PLANE 運動プロジェクト IN あまがさき
—ふんわりと、そして力強く未来へ—

研究代表者: 人間健康学部
人間看護学科 林谷啓美

はじめに

親愛なる尼崎市の皆様、いよいよ「PAPER PLANE運動プロジェクト IN あまがさき～ふんわりと、そして力強く未来へ～」というプロジェクトが始動します。

それを、平成26年10月18日(土)開催の第51回 園田学園女子大学学園祭でご紹介します。子どもから大人まで気軽にできる運動で、本学の学生も一緒に運動します。



尼崎市国際交流協会日本語講座

お祭りやコンテストのアナウンスもあり活気に満ちた授業でした。

堂々のベテラン揃いでアンケートも慣れていらっやいます。。。

2014/09/17



大庄公民館

夏休み明けの授業

お互いにはぐして再開を喜び合っていました。温かい!!

2014/09/03

地域志向教育研究発表

皆様、この機会にちょっと懐かしく、ちょっと新しい音楽に合わせて一緒に身体を動かしてみませんか。皆様のご参加ぜひお待ちしております。

今回はそのプロジェクトについてご説明したいと思います。

1. 尼崎をもっと元気にしたいという思い

「尼崎をもっと元気にしたい」という熱い思いが一致して、平成25年度より、本学人間健康学部総合健康学科の藤澤政美先生をはじめ、



尼崎市の協力を得て、健康増進事業研究会(公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団、社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会、公益財団法人尼崎健康医療財団市民健康開発センターハーティ21)、地域活動支援センター「Reverb」のメンバーが集まって、プロジェクトを立ち上げ、何度も話し合いを重ねて準備してきました。

このプロジェクトは、大学の教員が、学科の枠を越えてそれぞれの専門性を生かして取り組んでおり、さらに、地域と大学の協同・連携も実現しようとしています。

2. プロジェクト始動へ向けての今までの取り組み

平成25年度は、尼崎市にお住まいの高齢者の方々に「音楽と運動に関する調査」でご協力いただきました。その調査結果をもとに、オリジナルの音楽と運動をつくりました。その音楽は、地域活動支援センター「Reverb」のスタッフによる作詞・作曲・歌・演奏です。そして、運動には筋力運動とリズム運動の2つがあり、そのリズム運動の作成には、地域の高齢者の方々にご協力をいただきました。最初は、音楽も運動も高齢者の方々向けに作成しました。しかし、できあがった作品は、子どもも大人も一緒に楽しめるもので、尼崎をもっと元気になれるのではないかと考えています。

3. プロジェクトの今後について

今後は、尼崎市内の運動施設や集会所等で運動プログラムとして実施いたします。また、サークルやコミュニティ、さまざまなイベントの中でこの音楽と運動を展開していきたいと考えています。お気軽にお問い合わせいただけたら幸いです。



今後も末永く尼崎市の皆様に愛されるプロジェクトにしていきたいと思っております。

このプロジェクトに関するご意見・ご感想もお待ちしております。

PAPER PLANE 運動プロジェクト
IN あまがさき 実行委員会



庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための環境学習プログラムの構築

研究代表者:

人間健康学部総合健康学科 衣笠治子

園田学園女子大学近辺の

庄下川中流域は、遊歩道が整備され、生物も多様で、市民の親水性を高めるのにふさわしい地点です。小動物や植物も身近に観察でき、環境学習や地域、季節についての学びを実施するフィールドとしても適しています。幼稚園や学校教育の場でその学びを実践するとき、その資料となるべき教材を、多様な視点で提案できないかと調査研究し、プログラムを提案しようと試み



ています。昨年度は近隣小学校の生活科、町たんけんの授業の一環として、庄下川親水プログラムを学生が構築し、提供しました。

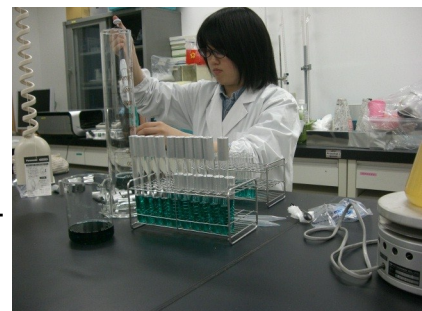


水生生物調査

昨年度は近隣小学校の生活科、町たんけんの授業の一環として、庄下川親水プログラムを学生が構築し、提供しました。

そのときの問題点の一つとして、もう少し深く生物化学的な基礎資料が必要であると感じたことから、本年度は、尼崎市衛生研究所、尼崎市経済環境局、環境部、環境保全課、環境監視センターと協力しながら、本学近辺の庄下川のモニタリングを継続しています。具体的にはDO、BOD、COD、pH、水温、濁度の測定を週に1回のペースで継続しています。尼崎市衛生研究所では庄下川の数地点で、定期的な水質検査と細菌検査を行っています。このモニタリング日と同日にわれわれのフィールドとしている園田学園女子大付近の庄下川中流域で、同様の水質検査、細菌検査を行い、採水地点によるデータの違いについて検討を進めています。サンプリングや実験方法に大きな違いがないように、衛生研究所に学生が向向き、水質検査、一般細菌検査、大腸菌群、大腸菌の検出の実習をさせてもらい、技術を習得し、なるべく正確なデータ比較ができるようにしました。

小動物に関して、過去の調査で、クサガメ、イシガメ、外来種のミシシippアカミミガメ、シマヘビ、カワウ、コサギ、ナマズなどが観察されている。さらに水生生物の調査も必要であることから、本年8月に庄下川



研究室での実験

中流域での調査を行いました。過去に放流され、繁殖が進んだと思われるコイのほか、フナ、カワムツ、ヨシノボリ、メダカ、スジエビ、ヌマエビ、外来種のアメリカザリガニが観察できました。幼児や児童は、生き物に対して大変興味を持つことから、多様な小動物の資料を提供することは親水性を深めるのに効果的です。小動物の調査はさらに回数を



地域志向教育研究発表

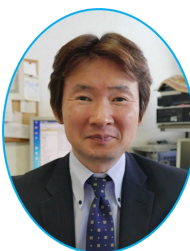
重ね、詳細な同定を進めるつもりです。また8月に行われた、尼崎市の児童を対象に理科実験を行うイベント「しゅくだい研究所」に、学生は補助として参加し、小学生の生活科や理科に関する興味を知ることができました。ここでは、参加した小学生に、庄下川に関するアンケートを実施させてもらっています。現在、結果分析中です。



1人一台タブレット端末実現に向けたICT活用尼崎市モデルの作成 ～2年目の挑戦！タブレット端末の活用でよりわかりやすい授業の実現に向けて～

研究代表者：人間健康学部 堀田博史

尼崎市立の小学校におけるICT環境は、決して整備されているとは言えません。2014年度では、普通教室には50インチのテレビモニタとインターネット接続できる有線LANが設置されているものの、京阪神の自治体の中でも整備は遅れています。ICT環境の整備は、その目的を「わかりやすい授業の実現」や「学力向上」と関連づけられるため、整備は急を要します。



本事業では、尼崎市立名和小学校をモデル校として、児童用8台・教師用1台のタブレット端末を設置して、授業での協働学習場面での活用により、児童の思考活動を充実させることで、よりわかりやすい授業を目指しています。

今回の報告では、2年目を迎えた進捗状況と今後の展開をお伝えします。

例えば、「かけ算」の単元では、生活場面から乗法九九を見つけ、求めることを通して、九九の理解を深めるとともに、タブレット端末を使用して学習することで、思考の共有化を図ることを目的としています。このように、「授業のねらい」と「タブレット端末活用のねらい」の両方が明確になることで、わかりやすい授業の実現にタブレット端末がどの程度効果的であったかを振り返ることができます。



また、ネット上に悪口を書き込むいじめについて考える授業では、タブレット端末からWeb上のコンテンツに接続して、その内容を大型モニターに投影する手軽な活用も行われています。



授業でのタブレット端末の活用について、教師が感じた内容をまとめました。

- a. パソコンと異なり、タブレット端末は児童側に立って操作が可能である
- b. 拡大縮小の操作では、より分かりやすく快適に閲覧できる
- c. 平面から立体に、よりイメージ化が図れる
- d. 書くことが苦手な児童も展開図をつくることができた
- e. 他のグループとの比較で思考を深めることができた
- f. 児童の「もっとやりたい」という意欲が向上した



今後、さらに授業でのタブレット端末の活用頻度を上げ、研究協議を繰り返すことで、効果的な活用を見つけ出していきます。また年度末には、教師用のタブレット端末、及びグループに1台のタブレット端末の効果的な活用事例をリーフレットにまとめ、成果報告会を開催することで、尼崎市全体への普及の足がかりとしていきます。



高齢者がこれまでの経験と生涯学習の成果を地域で生かすための検討

研究代表者：人間健康学部
人間看護学科 中村陽子

【はじめに】

日本の人口は減少期に入り、生産年齢人口が減少していく中で、団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成35年)にかけ、人口の年齢構成の変化や、市民ニーズの多様化により、福祉を中心とした従来の行政サービスだけで市民生活を支えることが難しくなっています。



2008年度末で、介護保険制度における支援や介護を要しない高齢者は、65歳以上では約80%、75歳以上でも約70%となっており、高齢者の自立度は概して高いです。こうした元気な高齢者にはこれまで培ってきた知識や経験、技能を地域参画、社会貢献に生かす役割が社会から求められています。

地方分権改革の基に、尼崎市総合計画には「高齢者が地域で安心して暮らせるまち」づくりがあげられ、「高齢者の豊かな知識・経験・能力が地域福祉の向上に大きな役割を担えるよう、社会参加の機会を提供し、ふれあいと生きがいのある地域社会の形成に努める。」ことが施策として取り組まれています。

特に自発的に生涯学習を継続する高齢者の役割への期待は大きく、生涯学習提供機関の理念にも社会貢献のための人材育成があげられています。園田学園女子大学は30年以上にわたりシニア層向けに大学を開放し、生涯教育を推進してきた歴史があります。学びを継続する高齢者の学習動機や社会貢献活動に対する認識などの実態と生涯



地域志向教育研究発表

学習の成果を地域で生かす具体的な支援策について検討したいと思います。

【今年度の取り組みと今後の課題】

本年度は、高齢者がこれまでの経験と生涯学習の成果を地域(尼崎)で生かす活動について検討するための準備を進めています。

具体的には、園田学園女子大学生涯教育センターシニア専修コースで学ぶ高齢者を対象に調査を実施中です。ボランティア、まちの支援員(尼崎市学校地域支援本部事業の一環)として地域のニーズを受け止め、社会に貢献する人材として地域福祉の向上に貢献するためには、今後どのような学習や援助が必要であるか調査結果を踏まえ提言したいと思います。

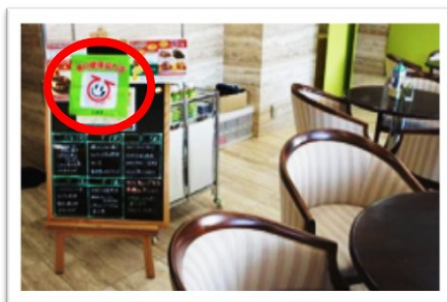
また、高齢者の社会経験は学生にとっても有効な資源となります。相互交流を通して、高齢者の学び続けようとする姿勢や人生観、これまで生きてきた時代を認識し、日本、地域、尼崎の現状を考える機会にするため経験を伝えるプログラムとして、看護学科高齢者関係の授業への参加、協力等交流の機会を模索しています。



健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について

研究代表者：人間健康学部
食物栄養学科 餅美知子

私たちは健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着をはかるために「食の健康」に取り組んでいる店舗「食の健康協力店」(H23. 3月現在)尼崎市内で約240店舗を対象として、活用度合と一般市民への認知度の調査を行ない、現状の取組内容と問題点の抽出を行うことにしました。



Pic-1兵庫県ホームページ
(食の健康協力店)より引用

“食の健康協力店”は、Pic-1のように店頭や店内にステッカーやタペストリーが貼られており、その取組事例として①「ひょうご“食の健康”運動」のPR ②店内禁煙の実施 ③野菜たっぷり料理、塩分控えめ料理、エネルギー控えめ料理の提供 ④ごはんを中心とした主食主菜、副菜のそろった定食の提供 ⑤オーダー時に主食の量、ドレッシングやソースの量を控えめにしよう注文できる ⑥栄養成分の表示などがあげられます。

期間は、平成25年11月～平成26年1月に食の健康協力店に対してアンケート調査を行ない、取り組みで一番多かったのは、終日禁煙を実施しているが54%、メニューの栄養成分表示は25.8%、ひょうご食の健康運動のPRは17.5%でした。

勧める食へのアプローチでは、野菜や大豆製品の日本食由来のメニューを推奨しており、食事で控えるのは、エネルギーや塩分であったが、スーパー・コンビニ 飲食店のチェーン店や個人の店でも新たな取り組みを考えており、そのような店舗に対しての栄養・食事アドバイスとフォローこそが本学の食物栄養学科の使命でもあります。

平成26年3月16日には、Pic-2のように研究課題報告会が開催され、研究成果を公表と問題点に関わる改善策について参加者と活発な議論が繰り広げました。

今回の調査を機会に、①現在、新たな健康・栄養啓蒙活動を展開しようと考えていない店舗に対しての意識づけ、②取組内容を増やしたいが、実践に結びつかないチェーン店・フランチャイズ店に対するサポートが急がれます。



Pic-2研究課題報告会発表風景

具体的には店舗を利用する者へのポスターやリーフレットの作成や今後開催されるつながりプロジェクトや食物栄養学科で次年度開催を検討している地域栄養学の授業で1年生から4年生までの幅広い学年が関わりを持って地域への取り組みを継続していきたいと思います。

さらに、2年目の取り組みとして、尼崎市役所、教育委員会、社会福祉協議会などの協力体制を密にして、“食の健康協力店”を利用する側からのデータ解析を行います。

学生地域連携推進委員会

学生地域連携推進委員会 つなGirlの活動



平成26年4月に結成しました

愛称は、<地域>と<大学>をつなげる女子大生という意味から「つなGirl」(つながー)です。

学生が継続的に地域に入り込んでいくための、きっかけとなる活動を目指しています。また、地域との関わりを通して、発表などの苦手を克服したり、積極性を身につけたり、成長の場にしたいと考えています。

まちの相談室開室

(大学と地域の交流窓口。つなGirlが運営)

地域の皆様から、学生に向けた、ボランティアやイベント情報をお寄せいただいています。「まちの相談室」は大学の窓口として、つなGirlまたは地域連携推進機構の職員がお話を伺います。

※開室日時については、お問い合わせください。

TEL:06-6429-9921

